

わいわいひろば おすすめ絵本のたより

第6号 2025年12月4日 作新学院大学女子短期大学部

「ちいさなかくれんぼ」

松永 悠一郎 作
福音館書店



草むらや木のそばで、小さな生き物がかくれんぼしています。「なにがいるかな?」「どこにかくれているのかな?」と、ページをめくるごとに探す楽しさを味わえる絵本です。

さまざまな生き物の姿が、可愛らしく優しいタッチで描かれていて、子どもが自然と絵に集中します。探し当てたときの“見つけた!”という達成感が強く、読み進めるほどに、子どもたちの意欲も高まり、指さしをしたり、「ここ!」という声が自然と出てくるところは、読み聞かせをする側にとっても魅力です。

お散歩前に読むと、外で虫や草花を探すきっかけにもなり、自然への興味が広がると思います。室内でも、「見つける遊び」を楽しみたい時に取り入れやすい内容です。0~3歳の子どもでも、それぞれの発達段階で“探す・見つける”楽しさを味わえる絵本ですので、ぜひ一度、手に取ってみてください!

2年 渡邊 香里奈

「ポポくんのおんがくかい」

accototo ふくだとしお+あきこ 作・絵
PHP研究所

私のおすすめする絵本は、ふくだとしお+あきこさんの「ポポくんのおんがくかい」という絵本です。かばのポポくんがたいこを壊してしまったことがきっかけとなり、身近なもので音を出して、仲間と音楽会を開くというお話です。

この絵本を読んでみて、日常にある物が楽器になる、ということに私自身が驚き、面白いなと感じました。新しい発想で、身の回りのことをどんどん楽しみに変えていくポポくんの姿がとても印象的で、前向きな気持ちになれます。

この絵本にあるように、特別な道具がなくても、石や空き箱などを使って音を出すことは、子どもにとっては身近で、きっと真似をしたくなるでしょう。友だちと一緒に音を重ねて演奏することは、協力する楽しさや、「できた!」という嬉しさを感じる新鮮な体験になると思います。子どもが音遊びを楽しんだり、表現する意欲を広げたりすることに繋がる一冊です。

2年 齋藤 愛



「こねこねねこのねこうどん」

くさか なみこ 作
カワダ クニコ 絵
KADOKAWA

本屋さんで絵本を選んでいたら、表紙の絵柄のかわいさに惹かれ、思わず手に取った絵本です。私自身、猫が好きということと、食べ物が出てくる絵本がいいなと思っていたので、イメージにぴったりでした。読んでみると、ねこの7きょうだいがかうどんを作っていて、ある日お祭りで100杯のうどんを作ることになるというお話でした。

最初は「できるかな?」と不安になるけれど、みんなで力を合わせて工夫しながら頑張る姿がとてもかわいく、読んでいて楽しくなります。途中でつゆが足りなくなるとピンチも出てくるのですが、その場で考えて行動するねこたちの姿は、子どもたちの心にも響くのではと思います。

助けてもらうことや、みんなで力を合わせることの大切さを、楽しみながら知ることができる絵本です。1人では難しいことも、誰かと協力することでうまくいくことがあるということを、このお話を通して親子で考えられるところもお勧めです。

2年 佐藤 由萌



- ☆作新学院大学女子短期大学部で保育を学ぶ短大生達のおすすめの絵本を紹介します。
- ☆今年度は、わいわいひろば内にてキッズスペースを設けています。
- ☆作新学院大学図書館で、一般の方も絵本や本を借りることができます。
- ☆手続き方法などをお知りになりたい場合は、お気軽にスタッフまでお声かけください。